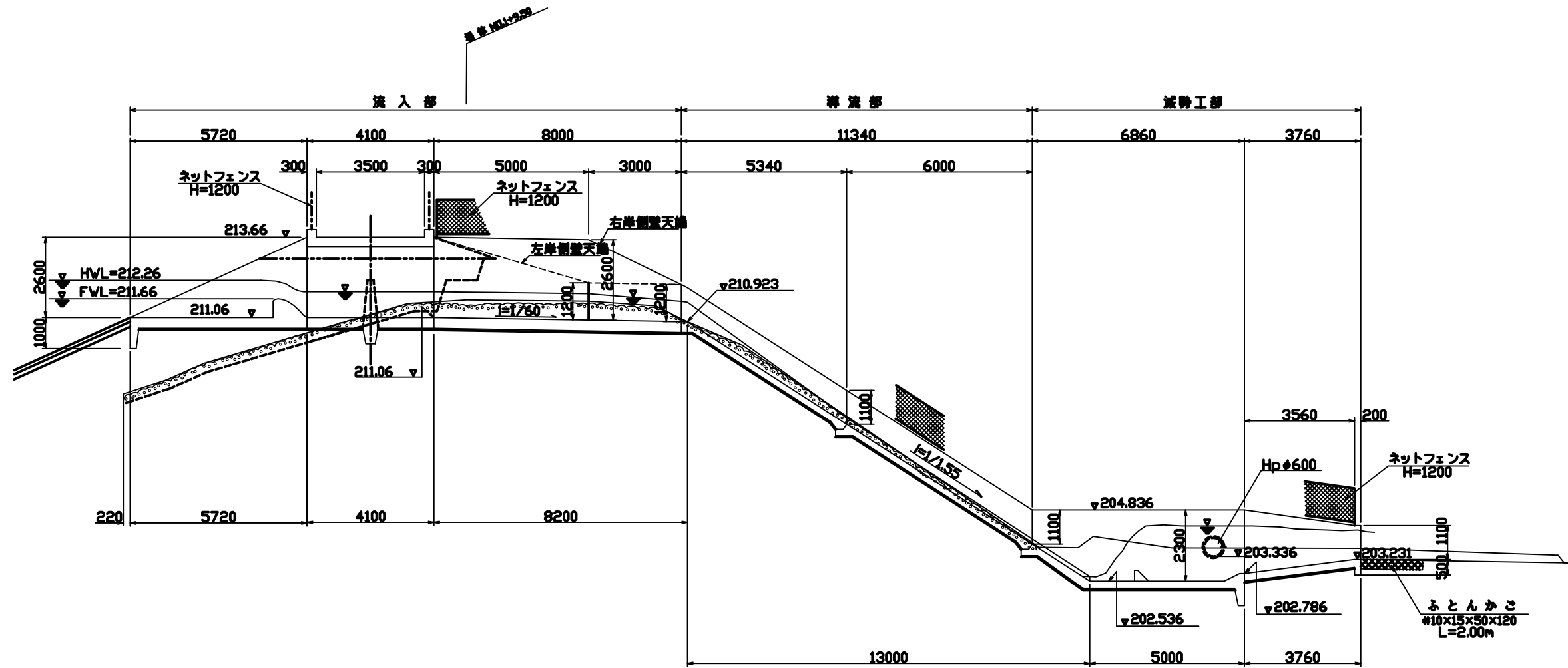
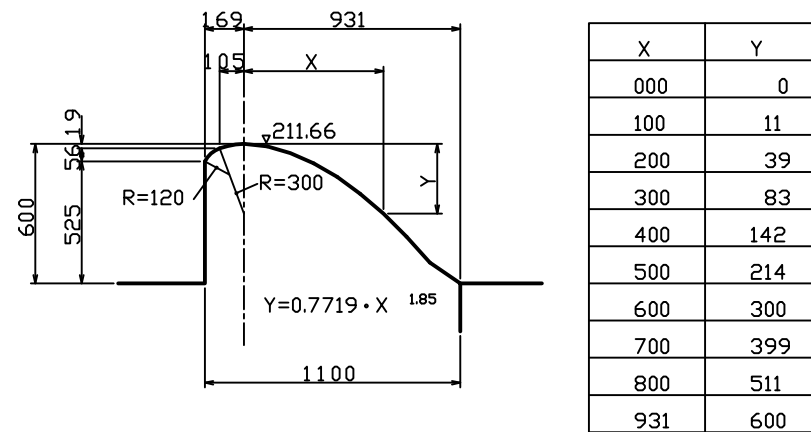


越流堰式



一般によく採用される形式である。越流堰の形状については、水理特性のよいハロルド曲線形状の堰（下図参照）で設計される例が多かったが、最近では小流量の場合、施工の容易な広頂堰、四角堰、で設計されることも多くなった。また、12年度に発行された土地改良事業設計指針「ため池整備」には越流幅が長くなり、越流能力が高いラビリンス堰（下図参照）について具体的な設計手法が記述されたため、今後この堰を使用する設計も増加していくものと予想される。

ハロルド曲線形状の堰



ラビリンス堰

